

研究名：回復期病棟における脳卒中と深部静脈血栓症の合併率に関する研究

研究責任者：

リハビリテーション科 医師 塚本康司

研究の背景・意義・目的：

長時間、脚を動かさないと、脚の静脈に血栓が生じることがあり（深部静脈血栓症：DVT）、それが血管の壁からはがれて血流に乗って肺の動脈を詰まらせることがあります（肺血栓塞栓症：PTE）。「エコノミークラス症候群」とも呼ばれるこの病態は、脳卒中により麻痺のある患者さんにも多く発生します。当院の回復期リハビリテーション病棟では、DVT の早期発見のため、入院時の採血で D-dimer を測定しています。本研究では、その有用性を示すと共に、脳卒中患者さんの中でもどのような人に DVT が起きやすいかを検討しました。

研究の方法：

- ・対象となる患者さん：2020 年 10 月から 2023 年 1 月の間に、当院の回復期リハビリテーション病棟に、脳卒中で入院された方
- ・研究期間：院長の研究実施に関する決定通知発行後から西暦 2027 年 3 月 31 日
- ・利用するカルテ情報：年齢、性別、疾患名、入院時の内服薬、入院時の下肢の麻痺の程度、入院時の D-dimer 値、入院 2 週間以内の DVT 発症の有無（下肢静脈超音波検査の所見）、入院 2 週間以内の PTE 発症の有無（造影 CT の所見）
- ・情報の管理：カルテから得られた情報は、当院のみで利用します。

研究組織：

この研究は、当院のみで実施されます。

個人情報の取扱い：

カルテ情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。カルテ情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

研究計画書等の公表：

この研究に関連した各種データについて知りたい場合は、担当医師を通じてその情報の開示を求めることができます。また、ご希望があれば、研究計画書や研究の方法に関する資料の閲覧や、ご提供することも可能です。ただし、他の患者さんの個人情報や研究の知的財産等など、情報の種類によっては開示できないものがあります。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、ご自身の検体やカルテ情報を当該研究に利用することをご了解できない場合などは、研究対象とはしませんので、研究責任者までお申し出ください。その場合でも皆様に不利益が生じることはございませんのでご安心ください。

<問い合わせ先>

独立行政法人国立病院機構 東京病院 リハビリテーション科 塚本 康司 つかもと こうじ
住所 東京都清瀬市竹丘 3-1-1 電話：042-491-2111 （代）

独立行政法人国立病院機構 東京病院 院長